六本木から眺めた広尾の街。中央に位置する段々状の建物が施工物件

山種美術館／ワイマッツ広尾

文＝田瀬理夫（プランタゴ）、山下博満（日本設計）
Text = Aaaaaaa Aaaaaaa (Aaaaaaaaaaaaaa)

写真＝米田和久、若林勇人＊
Photography =Kazuhisa Yoneda, Hayato Wakabayashi*

上／駒沢通り歩道よりかずら垣越しに美術館ロビーを見る
下／美術館ロビー内のカフェ「Cafe 椿」からの眺め＊

緑の額縁

立体的で多彩な緑
季節感ある透ける緑
美術館にふさわしいシンプルで現代的かつ繊細な緑というのが造園デザインの主旨である。

1階のロビーと駒沢通りの歩道との間にはかずら垣と名づけた二等辺三角形の断面をもつテイカカズラの垣根を設けた。かずら垣は建築内外の接触点の矢来のようなもので、歩道を歩いて来た人が室内に意識を向ける誘導標識のような役目を果たすのではないかという垣根であり、ロビー内から見れば視線を街路に向かって開く「額縁」である。

2階から6階のオフィスの開口部は東側に展開する広尾のまちを借景するテラスとなっている。テラス外周に廻らした緑化ユニットには4列の植栽が施されている。外側の2列はシラカシなどの常緑樹、3列目は常緑落葉樹の混植、一番内側は常落の花木低木と多彩な野草の混植であり、カゴの側面はテイカカズラが覆っている。

植物はすべて関東地方の在来種で、日本の色彩による、透ける緑の「額縁」となることを目指した。

かずら垣と緑化ユニットは約1年前に敷地外の圃場で事前植栽し、養生して竣工間際の短期間に現場搬入、設置された。

緑化ユニットには手すりも付いていて、2階から6階は各階1日、小気味よく一夜城のように緑の額縁が出来上がった。

G.K.チェスタトンは「美の本質」について

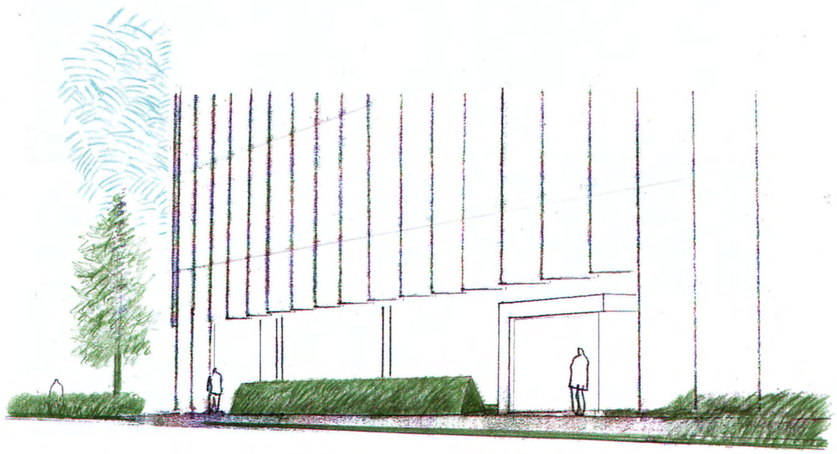
「すべての絵のいちばん美しい部分は額縁である」と言ったが、緑の額縁を透して眺める東京の風景はどう映りどう変わってゆくのだろう。

非公開部分だが1階の美術館の応接室の外には、モミジ、ツバキ、クチナシ、キキョウ、オミナエシなど四季折々の日本の植物、石彫、石灯籠でしつらえた小さな中庭がある。

地下の展示室には美しい日本美の世界がコレクションされている。

2年程の設計、監理の間に、この建物がどんどん好きになってゆくのを感じた。

（田瀬理夫／プランタゴ）



美術館正面のしつらえ（かずら垣のイメージスケッチ）

オフィステラスから透ける緑の額縁＊

1. 事前植栽。養生（10ヵ月）の様子　2. 現場導入　3. 工事用手すりを外し設置準備　4. 緑化ユニット設置（1～4写真提供／アネックス5×緑事業部）　5. ウッドデッキを貼り、テラス完成＊

美術館応接室より中庭を見る

いま、還る場所

このビルは、高質な日本画コレクションで知られる山種美術館と、別会社が所有する賃貸オフィスとが一体になった建物である。敷地は、恵比寿駅から北に駒沢通りの坂を上りきったあたりにあり、寺社・学校・大使館などの多い文教地区に位置している。用途は、地下1階を美術館の展示室、地上2～6階を賃貸オフィスとして、1階のエントランスやロビーを共用している。

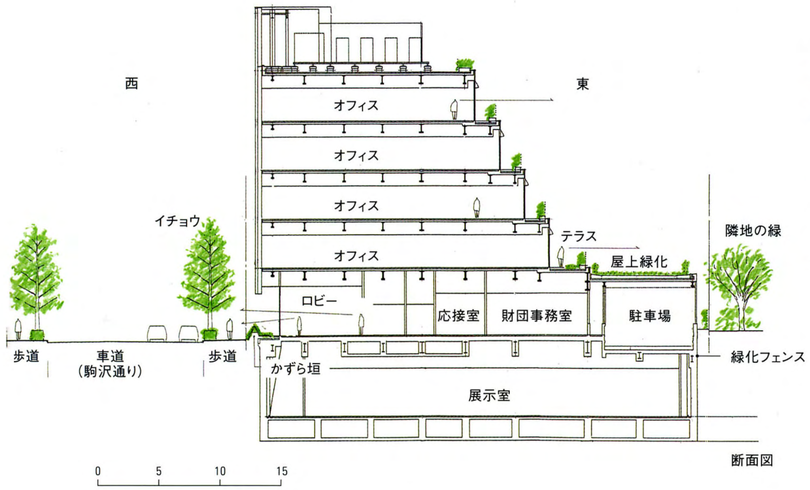
設計に際し、駅からのアプローチ、ロビーから展示室に至るシークエンス、日本画の鑑賞、カフェでの休息、という一連の体験を通じて、現代において忘れがちな物事の本質に立ち還り、さらには自分自身をかえりみながら新たな気持ちになり、またここに戻ってきたくなるような、ゆったりと時間を過ごせる静かな空間づくりを目指した。

駒沢通り側から見た建築の姿は、オフィス然とはならず日本画の美術館らしい印象となるように留意した。ベージュ色花崗岩の短冊が連続する抽象的な形態の中に、近づくにつれてロビーだけが見え訪問者を誘い込む。短冊の角はわずかに丸みを持たせて柔らかみのある表情とした。南西に向いたこの短冊は、日射による熱負荷を遮る機能も持っている。建物の東側は、近隣への日影を考慮した段状の形状とし、各階のオフィスワーカーに憩いの場を提供するテラスとした。

ここを訪れる多くの方々にとって「いま、還る場所」となることを願っている。

（山下博満／日本設計）

駒沢通り側、北面の全景＊



断面図

名　称	山種美術館／ワイマッツ広尾
所在地	東京都渋谷区広尾3-12-36
事業者	山種美術財団、トミーキャピタル
設計・監理	日本設計（造園／プランタゴ）
規　模	敷地面積／1,116㎡ 建築面積／893㎡ 美術館部分／1230㎡
施　工	鹿島建設 （造園／アネックス5×緑事業部＋富士植木）
工　期	設計期間／2007年4月～2008年1月 施工期間／2008年3月～2009年7月
造園仕様	事前養生緑化ユニット／アネックス5×緑（ゴバイミドリ）事業部 植物材料は全て関東地方の在来種 一部は5×緑の里山の植生保全活動 （eco japan cup 2007） 「三井住友銀行賞」受賞のエリアの植物を活用している。 1階／緑化フェンス、事前養生ターフ、アゼターフ、野の花マット、森のターフ、石彫、灯ろう 2階／石彫 6階／石彫、水盤、緑化ベンチ　など